

トータルケアNEWS

No.65 2017.5.31

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5
TEL 018-864-2714 FAX 018-864-2742
URL <http://www.akitakenshakyo.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyo.or.jp

CONTENTS

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の取組み
・秋田市（東地区）社会福祉協議会
・羽後町社会福祉協議会

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の報告 ～モデル指定社協の取組み～

本会では、「赤い羽根共同募金」の助成金を活用し、町内会や自治会、集落等の小地域において、地域の課題解決に向けて住民が主体的に取り組むための仕組みづくりを進める「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」を実施しています。

平成27年度から2年間、モデル地域に指定した秋田市（東地区）・羽後町社会福祉協議会の取組みを報告します。

◆秋田市社会福祉協議会 ～東地区社会福祉協議会の取組み～

□ 指定地区の概要

【 東地区 】

- ・世帯数：2,266戸（H29.3.31現在）
- ・高齢化率：25.56%（H29.3.31現在）
- ・秋田市の駅東に位置し、人口は約10,000人、東小学校、城東中学校の学区と20町内会からなる地区

【 東小沼町内会 】

- ・世帯数：51戸（H29.3.31現在）
- ・高齢化率：37.9%（H29.3.31現在）
- ・東地区の中でも比較的住民同士の交流が盛んな地域で、平成24年から最初にサロンを立ち上げた町内会

□ 具体的な取組み

秋田市社会福祉協議会では、見守りネットワーク事業の一環として地域サロン事業の普及強化を図っており、東地区では20町内のうち17町内会が自主企画による地域サロンを実施している。

東地区社会福祉協議会（以下「東地区社協」という。）では、地域の多世代の方が気楽に立ち寄り、語らい、ふれあいができる「ふれあいの居場所」づくりを目指し、東地区内の「東小沼町内会」を指定する形で、サロン「集まりっこ」の活動を中心に個別・地域・情報企画プログラムに取り組んだ。

サロンは、街区公園の草刈りや自主防災・避難訓練、夏祭りやグラウンドゴルフなど町内会行事に合わせて開催し、語らいの場を設けることでご近所の話題や気になる世帯等の近況を話し合い情報共有の機会とした。そこから日常の買い物やゴミ捨てるの状況、夜間等の様子などの見守り、声かけ活動につなげている。

また、町内会に加入している介護付有料老人ホーム「ラ・ナシカあきた」に協力を呼びかけ、施設内の一室をサロン会場として提供してもらうなど、施設の地域貢献の取組みと連携した活動を展開している。



サロン「語らい」



サロン「集まりっこ」

「ふれあいの居場所」づくりに向けては、東地区社協の役員が積極的に県内外の視察訪問や研修参加等を行った結果とサロン「集まりっこ」の活動を踏まえ、従来のサロンの概念にとらわれない「まちなかのオアシス」として、対象を限定しない誰でも気軽に立ち寄れる居場所となるよう、東京都文京区社会福祉協議会がコーディネートしている「こまじいのうち」をモデルとした。

買い物ついでにふらっと立ち寄り、一人暮らし・二人暮らし高齢者や子育て世代の親子などが語らい、仲間と過ごし、地域の学生と交流したり、趣味活動やグループ活動を披露したりと、多種多様な目的が生まれる場所をイメージしている。

場所は、地域にデイサービスを運営する株式会社から、地域貢献の一環として建物の一室を無償貸与いただいた。そこは長年地域に親しまれた医院だった建物で、スーパーに隣接しておりイメージ通りの場所となった。

名称を東地区住民に公募した結果、「ふらっとさん」に決定し、平成29年1月にオープン式典を開催した。毎週日曜日の午前10時から午後3時まで開設しており、運営スタッフは2名体制とし、地区社協役員や福祉協力員、保健推進員等が中心に担っている。

【プログラム】

- ①憩いのカフェ
- ②高齢者向けプログラム（健康相談、高齢者相談、読み聞かせ、栄養士による健康料理指導など）
- ③青少年向けプログラム（高齢者と子ども遊び、中学生・大学生による学習指導など）
- ④子育て支援お母さん向けプログラム（語らいの場、育児何でも相談、栄養士による「離乳食の作り方」講演など）



「ふらっとさん」プレオープンの様子



みんなで脳トレ中

「ふらっとさん」の取組みは始まったばかりだが、将来的には「介護予防・日常生活支援総合事業」（以下「総合事業」という。）における住民主体の通所サービスB型の実施をイメージしており、秋田市が目指す地域包括ケアシステムの構築に向けた「生活支援サービスを地域が担う」先行事例になればと考えている。

また、今回のモデル事業を通じて東地区社協の役員の意識改革が図られ、地域の基盤形成、特に町内会の協力体制にも成果として表れている。

今後は、運営スタッフの継続した確保や一般ボランティアの募集等を含めた運営体制の確立・整備とともに、積極的なPR活動を工夫しながら展開していく必要がある。

特にPRの面では、道路に面して「のぼり旗」を設置しているが、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりに向け、地域住民や他分野の団体等と連携しながら、ゆっくり、じっくり育てていくこととしている。

◆羽後町社会福祉協議会 ～西馬音内・仙道支会の取組み～

□ 指定地区の概要

【 西馬音内地区 】

- ・世帯数：1, 725戸（H29.4月末現在）
- ・高齢化率：34.4％（H29.4月末現在）
- ・町の中心部に位置し、世帯数が最も多く、多世代が暮らしているが、空き家や空き店舗が増えている地区

【 仙道地区 】

- ・世帯数：396戸（H26.4.1現在）
- ・高齢化率：39.8％（H26.4.1現在）
- ・山間部に位置し、世帯数が最も少なく小学校が閉校したほか、公共交通の廃止による買い物や通院などの問題を抱えている地区

□ 具体的な取組み

羽後町では、いわゆる昭和の大合併以前の旧7町村単位に「支会」が設置されており、社協会費からの交付金を主な財源として福祉活動を行うなど、住民ボランティアによる自主的な運営組織として活動している。町の中心部と山間部で条件は異なるものの、それぞれの地域特性を生かした福祉サロン活動をはじめとする地域福祉活動に精力的に取り組んでいる。

また、町の委託事業「安心・安全な街づくりパトロール隊」事業により、隊員が一人暮らし高齢者世帯等を週1回訪問し、安否確認や話し相手となることを基本に、電球の交換やゴミ出し、文書投函などの生活支援も行っている。

こうしたボランティアやパトロール隊に地域住民を加えた形で、一人ひとりが地域課題に対する気付きを深めつつ、相互に支え合うことによる新たな支援の形を模索することを目的としてモデル事業に取り組んだ。

西馬音内支会では、空き店舗を活用した出入り自由なサロンを常設しており、参加者による住民目線のメニュー（手芸教室）を取り入れたことで利用頻度が増えている。今後は総合事業の通所サービスB型としての活動を視野に入れ、サロンに参加できない方のニーズ把握を工夫するとともに、住民の趣味や特技を生かした「手仕事サロン」を目指している。



まごころサロンの様子

仙道支会では、県内で第1号でとなった「お互いさまスーパー仙道てんぽ」内に休憩所を兼ねた「おひさまサロン」を設置し、住民同士の交流の場として喜ばれている。日常的にふれあえる居場所があることで、生活困窮等の問題を抱える世帯の受け皿としての機能も果たし、見守り・気づきが促されている。今後は、スーパーに来ることができない人を対象とした買い物支援の方法を検討していく予定である。



おひさまサロンの様子

また、西馬音内地区の中心部をモデルに、試行的に「支え合いマップづくり」に取り組み、一人暮らし高齢者や認知症高齢者など見守りが必要な方の生活リズムや行動パターンの把握とともに、地域住民の誰がつながっているのか、誰が関わられるのか、などをマップに“見える化”することができた。

また、パトロール隊が住民目線でマップづくりに加わることで、日々の巡回で把握した情報を住民と共有することができたほか、巡回するうえで新たな気づきや発見があり相乗効果が生まれている。

今後は各地域でもマップづくりを推進し、住民主体の見守りネットワークの形成につなげていくことを目標としているが、パトロール隊による活動が既存の近隣住民同士の支え合いの関係を阻害することがないよう心がけたいとしている。

今回のモデル事業を通じて、両支会のサロンでは役員のほか地域住民の意識が高まり、住民主体の企画・運営が進み出しているほか、例えばパトロール隊が住民同士の支え合う関係づくりのコーディネート役を担うなど、新たな事業展開の可能性も考えることができた。

羽後町社協では、羽後町の特徴であるパトロール隊事業や支会組織を基盤とした住民主体の支え合い活動を充実強化させていくため、今後も支会の自主的な活動を支援していくこととしている。



パトロール隊による訪問